

第05号

2019年
5月28日



Safety Mail

● 滋賀県警察本部交通企画課 ●

県内の交通事故発生状況

《平成31年4月末現在の人身事故》

	件数	死者	傷者
本年	1,237	20	1,578
前年	1,370	13	1,733
増減	-133	+7	-155

〈高齢者の事故〉

※高齢者…65歳以上をいう



	件数	死者	傷者
本年	400	10	207
前年	391	9	225
増減	+9	+1	-18

交通事故は前年に比べて発生件数と傷者数は減少していますが、死者数は前年に比べて増加しました。亡くなられた20人のうち、10人が65歳以上の高齢者です。

5月は自転車安全利用月間!

～自転車で スマホさわるな 前を見て～



歩行中・自転車乗用中の死亡事故が激増!

CAUTION CAUTION CAUTION CAUTION CAUTION CAUTION

◆5月18日～26日までに起こった死亡事故

	発生日時	場所	亡くなった当事者	事故の概要
1	5/18(月) 午後7時台	東近江市 県道	80歳代女性 歩行者	普通乗用車が歩行者(自転車を押して横断中)と衝突
2	5/21(火) 午前7時台	東近江市 県道	60歳代男性 自転車	自転車が普通乗用車と離合時、標識柱に衝突

ドライバーも、ゆとりを持った運転を!

とまる



しっかり安全確認を!

みる



かもしれない運転を!

まっ



無理な横断はしない!

自転車乗車用ヘルメットの着用を ～手記「脳を守る」～

まだ、社会に「高次脳機能障害」という言葉が知られていない 1995 年 9 月 15 日敬老の日、高校 2 年 16 歳の息子は体力作りにと早朝より自転車で出かけていきました。

「行ってらっしゃい、気をつけてね。」と送り出し、夕方「今から帰るからね、お腹がすいたな。」と、これが健常者としての息子の最後の言葉になろうとは夢にも思いませんでした。

病院のベッドで横たわる息子との再会、ついさっき電話で話したばかりなのに意識のない息子を前に医師から説明を受けたものの頭の中は真っ白、何も考えることができず、命さえ助かれば良い、また笑顔に会えると、ただただ祈るばかりでした。

命を取り留め、体は徐々に回復してきましたが、日を追うごとに感じる違和感、何かが違う。

これが頭部外傷による「高次脳機能障害」でした。

今まで簡単にできていた事が出来なくなり絶えずイライラする息子、復学を望んでも難しく支援学校への転校など様々な壁が待っていました。

例えば支援学校卒業後、就労することが出来ましたが、一度に沢山のことを記憶することが難しく仕事の手順などなかなか覚えることが出来ず失敗を繰り返すこともあります。

また、コミュニケーションが上手くとれず、他者とのトラブルも起こりました。

主婦の場合、子供との接し方が解らず母親としての対応が出来なくなってしまう、家事を上手くこなせなくなる。

小児においては仲間との言葉の理解が出来ずそのため仲間はずれやいじめの対象となり様々な問題が出てきます。

また働き盛りの方たちは、復職はしたが以前のようにテキパキと仕事がこなせない。予定を立てられないなど、問題が出てきます。

見た目は健常者の方達と何ら変わりはありません。

しかし、社会生活を営む中で様々な支障があるのも現状です。

人として一番大切な脳の機能が失われると言うことは生きていくことに疲れてしまうことがあります。

自転車が好きで運動することが好きだった息子は休日の時はいつもヘルメットをかぶり自転車で出かけていました。しかし、事故に遭ったあの日に限って、ヘルメットをかぶっていませんでした。

24 年経った今でも思います。あのときヘルメットをかぶっていたらここまでひどい障害が残らなかったのではないかと。

今、息子は出会った人たちのおかげで高次脳機能障害者ですが元気に生活しています。

自転車で出かけるときは必ずヘルメットを忘れずかぶっていきます。

そして一言、「ノーヘルは危ないからね」。

NPO 法人日本高次脳機能障害友の会
理事長 古謝由美



知っていますか？自転車用ヘルメット

ヘルメットの着用は、「滋賀県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」で、『幼児・児童・生徒・高齢者はヘルメットを着用しましょう』と定められています。

自転車事故で死亡した人の約 7 割が頭部に致命傷を負っています。頭部の保護は事故の被害を軽減する上でとても重要です。

事業所内に掲示するなど、多くの方々にご覧いただけるようご協力ください。

TEL 077-522-1231 (代表) Eメール x0022@police.pref.shiga.jp